

令和6年度 大阪市立美津島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るために、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和6年度 大阪市立美津島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	126	53	46	6.3	16.0
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	120	62.3	48.7	48.8	52.1	55.2	6.4	5.3	15.5	4.1	7.1
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9
2 年	学校	113	63.5	53.4	48.2	51.6	55.3	6.5	2.9	6.1	2.9	4.5
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	49.5	54.6	8.4	4.6	8.2	6.1	7.0
	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	47.2	54.0	9.3	5.2	9.5	7.4	7.9
1 年	学校	140	52.0	49.5	41.9	46.1	53.0	10.9	6.4	11.2	6.8	7.4
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.8	4.9
	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】		聞くこと 【リスニング】		書くこと 【ライティング】		話すこと 【スピーキング】	
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	116	102.9	97.9	135.3	88.3				
10月18日	大阪市	—	105.7	104.6	149.6	102.1				

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトルラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
			118								
2 年 男 子	学校	33.47	26.83	38.53	52.78	81.00	—	8.06	194.41	18.70	41.60
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76	—	8.08	194.64	19.84	41.10
	全国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98	—	7.99	197.18	20.57	41.86
2 年 女 子	学校	24.71	21.95	44.30	47.89	51.61	—	9.22	159.88	10.38	45.56
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98	—	9.22	167.01	12.04	47.51
	全国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67	—	8.96	166.32	12.40	47.37

令和6年度 大阪市立美津島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

2年生チャレンジテスト

<国語>令和5年度(1年生時)と比較して、令和6年度は総得点の平均値が上昇した。(R5年度府平均比-5.3ポイント⇒R6年度平均比-2.0ポイント)領域別でみても、読むこと(本校平均22.9ポイントに対して府平均23.6ポイント)と改善傾向にある。さらに、書くこと(本校平均6.0ポイントに対して府平均5.9ポイント)という結果で府平均を上回ることができた。

しかし、府の平均を上回る項目もある中で漢字の読み取り、書き取りや語句の意味を正確にとらえる問題について課題が残る結果となった。

<数学>例年苦手としている関数と記述式の問題において、大阪府の平均とほぼ同じもしくはそれを上回る数値をとることができた。無解答率も大阪府と比べると下回るもの多かった。思考・判断・表現に比べ、知識・技能の観点が下回り、数と式や選択式問題などの基礎問題をしっかりと取れていない生徒が多いことが分かる。

<英語>昨年度は、「書くこと」が2.4点低かったため、定期的に既習文法や単語を使用して、グループや個人で英文を作成し、発表を行うなどの取り組みを行った。結果として大阪府平均に対して、今年度は「書くこと」が1.2点を上回ることができた。その一方で、「読むこと」が-0.1点となった。「読むこと」については、文章も長くなり、苦手意識を持つ生徒が増加していることが今後の課題として挙げられる。

<理科>大阪府平均を4.4ポイント上回った。無回答率が低いことから解答意欲が高いことがわかる。領域別の知識の定着は「粒子」と「動物分野」で、観点別では「思考・判断・表現」に課題が見られた。情報量の多い分野や問題において、知識や情報を整理すること、また論理的に考え、そのことを表現する力を身につける必要がある。

<社会>府平均に比べて地理的分野が+2.6点、歴史的分野が+1.3点であり、地理的分野において特に高い結果となつた。地理的分野に関しては一学期に学習した内容なども多く含まれているため、二学期後半に4時間ほど復習したことがこの結果につながったとみられる。歴史的分野は直近の内容であるため授業改善を行い、学習内容の定着を図りたい。

【今後に向けて】

2年チャレンジテスト

<国語>記述式の問題の正答率がよかった半面、漢字の読み書きや語句の意味の理解について課題を残している。そのため漢字学習では漢字プリントや小テストの充実を図り、グループワークを通じて互いに文章や言葉の理解を深められるような学習活動ができるように授業を工夫していく。

<数学>関数や記述式問題の正答率を伸ばせるように今後も努力したい。基礎基本である数と式はどの生徒も取り組みやすい単元なので問題を数多くこなしていく、大阪府の正答率を上回るようにしたい。また、証明問題の正答率が低かったので、苦手分野を中心とした復習も行っていく。今後も力をつけられるような、授業や宿題の工夫もしていく。

<英語>「書くこと」については、何かしら書こうとする姿勢が多く見られるようになってきている為、引き続き英語で書く機会を与えていきたい。「読むこと」に関しては文章も長くなり、普段の授業の中でも苦手意識を持つ生徒が増加している。そのため、なるべく短めのものや生徒たちの興味関心を引き出すことのできるテーマで、多くの演習問題に取り組ませていきたい。

<理科>確実に知識を定着するための小テストに取り組むとともに、思考力・表現力を必要とする問題を解く機会を提供していきたい。

<社会>3年生のチャレンジテストでは1年生の範囲も含まれ今年度よりもテスト範囲が広がるため、一学期の早い段階から小テストなどの復習に取り組む。また夏休みには補充学習会を実施し、授業では扱いきれない分野や入試問題などにおいてもフォローアップを行いたい。

令和6年度 大阪市立美津島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

1年チャレンジテスト

<国語>学力に課題を抱える生徒が多かったが、大阪府平均と比較して「話すこと、聞くこと」は-1.7ポイント「書くこと」は-1.4ポイント「読むこと」は-1.7ポイント、全体では-6.5ポイントという結果であった。基礎基本の定着と思考、判断、表現の力に課題がある。

<数学>

府平均に対して-7.9点という結果であった。基礎基本問題の正答率が少し低く基礎学力がまだ定着していない。基礎基本の学力を基盤として思考力・判断力・表現力の問題を解く力につながるので再度、基礎的な問題や基本的な学習に授業で取り組んでいきたい。

<英語>大阪府の平均よりも下回る結果になったが、リスニング問題については、日常的な話題についてのやり取りを聞いて内容を把握する問題に関しては、大阪府の正答率よりも高い解答もあった。

「読むこと」や「書くこと」に対して苦手意識を感じている生徒が多く、英単語を書く問題については、特に正答率が低かったが、長文の内容を把握できている生徒も多かった。

1年チャレンジテストプラス

<理科>市平均と比較すると、全体の平均はかなり下回った。観点別では、思考・判断・表現よりも知識・技能の方が、平均正答率が下回った。カテゴリー間の比較では全体的に均等に正答率が低く、全体的な底上げが必要である。

<社会>成果と課題 地理的分野の振り返りを行う時間がなく、地理の平均点が、-6.8(歴史-1.67)となった。例年になく、低学力の生徒にも、楽しんで授業を行えるように工夫したが、振り返りの時間を確保できているようにした。

【今後に向けて】

1年チャレンジテスト

<国語>ワークシートの単元ごとのワークの解き方を丁寧に取り組ませるとともに、文書読解に関するグループワークを取り入れ書くことへの苦手意識や学力の定着を目指していきたい。

<数学>文字を含む計算問題や文章問題の苦手意識の克服に焦点を当て学力の定着を目指していきたい。またグループワークの時間を設けることで、人に伝える力を身に着けるとともに学力の二極化の対策をしていきたい。

<英語> 今回の結果を踏まえて、今後も継続して英単語テストなど、語彙力の向上に努めていきたい。また、英文読解力や自分の考えを英語で表現する力をつけるために、C-NETとのプレゼンテーションやインタビューテストを実施していきたい。英語で考え表現する機会を増やし、英語学習の意欲を高めていきたい。

1年チャレンジテストプラス

<理科>反復学習なども取り入れて、基礎基本の学習にさらに時間をかけ、小テストなどで知識・技能の定着をはかる。また、調べ学習などで主体的に学ぶ姿勢を身に着けさせる必要がある。

<社会>歴史の授業は4人班毎時間話し合いを行い、興味関心を持って取り組む生徒が増えた一方、問題の演習時間がほとんどなかったから、短答式の解答のところで、平均点を大きく下回った。(-9.8)

今後は、バランスの良い授業展開を行えるよう、研鑽していきたい。

令和6年度 大阪市立美津島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

- 日々の睡眠時間について男子は大阪市、全国ともに6.6時間未満の割合が約21%に対し、美津島中学校は約28%と高くなっている。
- 女子は、大阪市、全国が28~29%に対して、美津島中学校は約26%である。
- 朝食を食べるかの質問では、男女ともに全国、大阪市に比べ食べない割合が高くなっている。
- 体力テストでは、男子においては握力、上体起こし、反復横跳びが大阪市、全国の基準を上回ることができた。それ以外の種目は上回ることができなかった。
- 女子においては、握力、反復横跳びは大阪市、全国を上回ることができたが、それ以外の種目が上回ることができなかつた。
- 総合結果として、男子の学校平均値は41.60で、大阪市の41.10を上回り、全国の41.86には届かなかつたが、初めて大阪市の平均基準を上回ることができた。
- 女子はの学校平均値は45.56で、大阪市の47.51と全国の47.37を上回ることができなかつた。

【今後に向けて】

(運動面)

・体の柔軟性が男女ともに不足していると考える。体が硬いから可動域が狭くなり、動かすことができる範囲が限定されて、運動にも影響が出ていると考える。様々な動きのある運動や補強を取り入れることで対策をしたいと考えている。また、速いスピードで走ることに慣れていないことも少しあるため、対策を考えていきたい。

(生活面)

・睡眠時間が全国、大阪市に比べて短い生徒が多い。塾などの習い事で睡眠時間の確保が難しいのではないかと感じる。睡眠時間が短いと体づくりと、筋肉の修復が不十分になってしまいうため、睡眠の大切さを生徒と共有し、家庭と協力して促していく。

・食事では、朝食を食べない生徒が全国、大阪市に比べて多い。朝食は1日の活動のうち、臓器を動かすエネルギーにもなり、勉強、運動を行うエネルギーにもなり、運動で傷ついた体を修復、強化するための役割もあるため、食事の重要性を保健等でも伝えていきたい。